

森林を知り、木と親しむ

～体験型普及啓発活動の事例～



～ もくじ ～



もくじ	・・・	1P
はじめに	・・・	2P
事例 1 間伐体験・製材所の見学	・・・	3P
事例 2 里山を知り地元材でモノづくり体験	・・・	4P
事例 3 ミニチュアハウスの組立体験	・・・	5P
事例 4 出前体験授業：大阪の林業を学ぶ	・・・	6P
事例 5 木工でものづくりを楽しむ活動	・・・	7P
事例 6 杉BOXワークショップ	・・・	8P
事例 7 杉のオーナメントづくり	・・・	9P
紹介団体の活動風景	・・・	10P



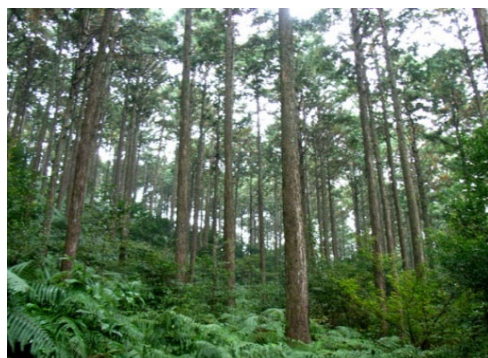
森林環境譲与税の用途の一つとして、子どもたちをはじめ多くの方々に森林を守り育てることや木材を使うことの重要性を理解していただくための間伐体験や木工教室などの普及啓発事業があります。現在、大阪府内で活動されている団体の取り組みについて、一部の事例を取りまとめましたので、各市町村で普及啓発事業を実施する際の参考としてください。なお、事例内容の詳細等については各団体にお問い合わせください。

最後に、本冊子作成に当たりご協力をいただきました各団体の皆様にこの場をお借りして御礼申し上げます。

はじめに

森林環境譲与税を使った普及啓発活動が目指すこと

◆ 森林環境譲与税で森林を守る



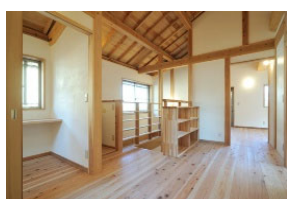
森林には土砂流出防止や水源かん養、二酸化炭素の吸収など様々な機能があり、私たちは多くの恩恵を受けています。このような森林の有する公益的機能の維持増進を図るため、市町村や都道府県が実施する森林整備やその促進に関する施策の財源に充てるため、「森林環境税」(令和6(2024)年度から課税)及び「森林環境譲与税」(令和元(2019)年度から譲与)が創設されました。

これらの税を有効に活用することにより、森林を守り育て、そして私たちの暮らしを守ることに繋がります。

◆ 「森林サイクル」の活性化が森林を守る

森林を守るためには、「森林サイクル」を継続的に回していくことが重要です。

一定の大きさに成長した木を伐採して搬出し、再び新たな苗木を植えて育てていくという作業は、森林を活性化させるために不可欠なサイクルです。木を伐採して積極的に使っていくことが、森林を守り育てるためには重要なことです。



◆ 「森林環境譲与税」の活用に向けて

私たちの暮らしを守るために森林を守り育てることが必要であること、そのためにも森林から伐り出される木材を積極的に使うことが有効であることを、多くの方々に知ってもらうことから始めましょう。

具体的には、

- ・実際に森林に行き、森林の様子や木の伐採等を体験してもらう
- ・森林や林業のこと、木のことへの理解を広めるセミナーを開催する
- ・木を使ったワークショップを開催し、木に触れて親んでもらう
- ・公共建築物の木造化・木質化・木製品の整備により住民の方々に木に触れ感じてもらう

などがあります。

私たちの生活を取り巻く環境は、便利さを追い求めた結果、メンテナンスフリーの素材が重宝される傾向にあることは否めません。そのような中で、手入れが必要な木製品の需要は少なくなり、私たちの周りで見かける機会がだんだん減ってきています。特に子どもたちが木製品を目にし、触れるのが当たり前ではなくなっています。

しかし、工業製品にはない風合いや手触りの良さという利点が木製品にはあります。それらを直接目にし、触れる機会が多くなることで、人々は木の良さを再認識し、未来を担う子どもたちにも自然と伝わることでしょう。

こうした観点から、森林のこと・木のことを自ら体験し、学ぶ「普及啓発活動」の実施は、森林環境譲与税の趣旨にも沿った重要な取り組みの一つであり、その効果が期待されます。



事例Ⅰ 間伐体験・製材所の見学

所要時間
7時間

対象：小学生以上
親子参加も可



ポイント：山へ行き、実際の手入れを体験する

◆ 活動の概要と特徴

バスで杉や桧が植林されている山へ行き、実際に手入れをしている人の話を聞き、その作業を体験する。また、伐られた木がどのように住宅の材料として使えるようになるかも見学する。

山へ行くことによって、山の空気や土地・そこに育っている植物なども見ることができ、山とまちが繋がっていることが実感できる。また、製材所を見学し、木は伐っただけでは家を建てる材料としては使えないことを理解する。

◆ 活動のねらい

- 1) 大阪府内にも私たちの家の材料となる杉や桧が植林された山があることを知る。
- 2) 植林された杉や桧が家の材料として使えるようになるには何年くらいかかるか、その間にどんな手入れが必要かを学ぶ。
- 3) 山に植えられた木を使わないと山の手入れが行き届かず、山のCO₂吸収能力が低くなるため、木を使うことが環境を守ることを知る。
- 4) 伐った木が家の材料となるまでにどんな作業が必要かを学ぶ。

◆ 事前準備等

- 1) 協力いただける山主さん及び製材所を捜す。
- 2) 山主さんと開催時期を調整する。
- 3) 参加対象・人数を決める。
- 4) 集合場所・現地までのルート、トイレの場所等を確認。
- 5) バス会社を捜す。
- 6) 山主さん・体験指導員・製材所などへの謝礼、バスの費用を決定し、参加費の算出。
- 7) 行事保険などに加入。

◆ この活動の実施例

8:30	天王寺を出発
10:00~12:15	河内長野の山で間伐体験 山の中でお弁当
12:45~13:45	木根館(河内長野市立林業総合センター) で木エワークショップ
14:00~14:30	製材工場見学
16:00	天王寺で解散

※ 体験は草刈り・枝打ちなどもあり

■ 予算

- | | |
|------------------------------|-----------|
| 1) バスチャーター代(高速料金等別途) | 150,000円~ |
| 2) 間伐指導員謝礼 | 60,000円~ |
| 3) 事務費(チラシ、当日のしおりなど) | 10,000円~ |
| 4) ワークショップ材料費(500円~1000円×人数) | |
| 5) 保険料(社会福祉協議会で加入できる) | |
| 6) 出張費※要相談 | |

■ 必要な材料や道具

- 1) ワークショップの材料(主催者で用意)
- 2) ヘルメット、軍手(主催者で用意)
- 3) のこぎりやカマ(指導員に準備を依頼)
- 4) 救急用品
- 5) ウインドブレーカーや雨具

◆ 活動における注意点

- 間伐・草刈り・枝打ち体験につかう道具の使い方については、事前に参加者に注意点を説明してからスタートする。
- けがなどのトラブルが発生する可能性があるため、救急に関する準備や連絡体制を確認しておく。
- 感染症対策は、マニュアルを作成しすべての参加者に周知する。

問合せ先

NPO法人もく(木)の会

TEL: 06-6615-5117

e-mail: info@mokunokai.jp

URL: <https://www.mokunokai.jp/>



事例 2 里山を知り地元材でモノづくり体験

所用時間
2時間～
内容に合わせて要相談

対象：小学生以上



ポイント：講座を通じて里山のことを知る

◆ 活動の概要と特徴

森林境界が不明瞭または所有者が明確でないなどから里山の森林管理や保全活動を行う環境が整備されていない現状がある。

まずは多くの方にその現状を知ってもらうために、地元の材を活用したモノづくりと合わせた講座を開催。モノづくりを通して身近な里山の現状を知ってもらい、里山の保全や木材活用へとつなげていく。(※今回は全6回シリーズを実施)

◆ 活動のねらい

- 1) 地元の人が里山の木材活用体験をすることにより木材の地産地消につなげる。
- 2) 木材を中心とした環境講座を行う。
- 3) 地元の森林整備活動について知ってもらう。
- 4) 林業地でない地域(里山として活用してきた地域)の現状を知ってもらう。

◆ 事前準備等

- 1) 開催人数、参加対象、実施場所を決める。
- 2) 日程・開催回数・時間を決める。
※コロナなどの状況に合わせて対応
- 3) 見積・発注
- 4) 開催告知資料の作成
- 5) 開催の告知・集客



◆ この活動の実施例

1) 八尾市内山側の廃校にて6回シリーズとして開催

- 1回目 講座の目的と工具に慣れる
- 2回目 お箸づくり
- 3,4回目 スプーンづくり
- 5,6回目 スツールづくり



2) 指導者養成とプログラム制作開催

6回シリーズの内容を中心にその地域や団体の特性に合わせて、継続して活動するための指導者養成や、プログラム制作もしております。

◆ 活動における注意点

- 講座の内容によっては、刃物を使うので、必ず道具の使い方についての説明を受けてからスタートする。
- 小学生以下は必ず保護者(若しくは責任者)同伴とする。



■ 予算

- 1) 講師料 3万円/回～ ※要相談
(実施時間・参加人数などによる)
- 2) 材料費 0円(地元材を準備して頂く事想定) ※要相談
- 3) 出張費等 ※要相談
(開催場所や駐車場の有無により変わる)

■ 必要な材料や道具

- 1) 木工の材料(地元材を準備して頂く事を想定) ※要相談
- 2) 工具(主催者で用意)
- 3) 救急用品
- 4) シリーズ開催の場合は材料の保管場所
※保管できない場合は要相談

問合せ先

木育サポートネット



TEL: 090-5244-0377

e-mail: mokusaponet@gmail.com

URL: <https://relab-wood.com/mokuiku>



事例 3 ミニチュアハウスの組立体験

所用時間
1時間
出前授業：2時間

対象：小学生以上
高校等出前授業可



ポイント：自分で組立て 伝統軸組工法を学ぶ

◆ 活動の概要と特徴

実物の2分の1ほどの大きさではあるが、組立てに釘は1本も使用しない。土台と柱、柱と梁などの仕口は本物同様に大工がきざみ、子ども達が木槌で叩き組み立てていく。材は大阪府産材を使用し、土台は桧、柱・梁等は杉を使用。一部に建具や壁も取り付けられる。実際に組み上げる経験は、木の香りや重さを知る貴重な機会となる。

組立て開始前に、紙芝居で近くの山の木を使って家を建てるのが山を元気にして、私たちの街を守り、地球温暖化を防ぐことにも繋がることを伝える。

◆ 活動のねらい

- 1) 日本には多くの伐り時の木があり、私たちがその木を使い、家を建てるのが山の健全な森林サイクルを守り、災害から街を守り、地球温暖化を防ぐことに繋がることを知る。
- 2) 実際に杉や桧の材を自分で持ち、運び、組み立てることで、木に触れ、香りを感じ、重さや硬さなどを知る。木の良さを体感する。
- 3) 日本の家の伝統工法を知ること、木造軸組工法の住宅への興味に繋がり、将来家を建てる時に選択肢となり、持続可能な社会へ繋がる。

◆ 事前準備等

- 1) 開催人数、対象を決める。
通常、小学生の場合、1回15人程度
(※コロナ禍の場合、1回に10人程度まで)
- 2) 日程・会場・開催回数・時間を決める。
- 3) 当日参加可能なスタッフを確保する。(最低4名程度)
組立て時、解体時、材料運搬時に必要。
- 4) 材料の運搬方法を考え、手配する。
- 5) 行事保険などに加入する。

◆ この活動の実施例

- 1) 小学生対象の場合
はじめに「紙芝居・地球を守る森と木の話」で森林の働き・日本の木を使うことが地球環境を守ることに繋がることを学び、組立て体験を行う。
- 2) 出前授業(高校・専門学校など)の場合
はじめに座学において日本の山の現状や日本の山の木を使うことの意味・無垢の木を住まいに取り入れる効果などを学び、組立て体験を行う。
簡単な図面等を資料として配り、自分たちで考えながら組立てを行う。

■ 予算

- | | |
|-----------------------|----------|
| 1) 材料運搬費(2トラック) | 25,000円～ |
| 2) 指導員謝礼 | 80,000円～ |
| 3) 出張費 ※要相談 | |
| 3) 事務費(チラシ・当日の組立図等) | 10,000円～ |
| 4) 保険料(社会福祉協議会で加入できる) | |

■ 必要な材料や道具

- 1) ミニチュアハウス軸組み等の材料(主催者で用意)
- 2) 人数分のヘルメット・軍手(主催者で用意)
- 3) ブルーシート・木槌他(主催者で用意)
- 4) 救急用品

◆ 活動における注意点

- 組立て時は複数で重さのある材を組み立てるので事前に参加者に注意点を説明してからスタートする。特に小学生の場合は適切な誘導が必要。
- けがなどのトラブルが発生する場合がありますので救急に関する準備や連絡体制を確認しておく。
- 会場は換気の良い場所とし、その他感染症対策はマニュアルを作成しすべての参加者に周知する事。

問合せ先

NPO法人 もく(木)の会

TEL: 06-6615-5117

e-mail: info@mokunokai.jp

URL: <https://www.mokunokai.jp/>



もく(木)の会



事例 4 体験授業：大阪の林業を学ぶ

出前授業：2時間
(45分×2コマ)

対象：小学生以上



ポイント：オンライン授業と出前（オフライン）授業
どちらでも学べる

◆ 活動の概要と特徴

大阪府は日本一森林面積が少ない都道府県でありながら、南河内地域では「河内林業」が300年以上続いている。本授業では、林業の川上から川下までの流通と森林保全の意義を学ぶ。

また、まちに近い森林の役割をドローンなどの映像で学び、木に触れる木工体験やリサーチカードを使い対話的主体的に学ぶ。

オンラインでもオフラインでも学ぶことができる授業を提供する。

◆ 活動のねらい

- 1) 大阪にも森林があり、街と海とも密接に関わっている森林サイクルの重要性を知る。林業は、山の健全な森林サイクルを守り、災害から街を守り、地球温暖化を防ぐことに繋がることを知る。
- 2) 身近な生活のどこに木が使われていて、その木はどこからきたのかを、リサーチカードで主体的に学ぶ。木材自給率のグラフを読み解きながら学ぶ。
- 3) 木材の流通と林業の重要性をドローン等の映像から学ぶ。また、社会・経済・環境のバランスを学びとる。
- 4) 事前に配布した体験キットによる体験を通じて、木の特徴を五感で感じながら学ぶ。

◆ この活動の実施例

- 1) オンライン授業の場合
森のおはなし (45分)・木工体験 (45分)
- 2) 出前（オフライン）授業の場合
森のおはなし (45分)・木工体験 (45分)

■ 必要な材料や道具

- 1) 講義用資料一式（主催者で用意）
- 2) 体験キット一式（主催者で用意）

※オンライン授業の場合のみ、下記3、4も必要です。

- 3) 受講者側のICT環境
- 4) 受講者側のインターネット環境

◆ 活動における注意点

- 受講者側のICT環境やインターネット環境に関しては、受講者側で整えてもらう。
- 事前打ち合わせが必要。（オンライン可）
- 原則、開催日決定後の変更不可。
（警報発令等の場合は、別途相談）
- 木工体験時には、木のほこりが発生するので注意。
- 出前（オフライン）授業の場合は、感染症の状況により実施が困難な場合あり。

◆ 事前準備等

- 1) 開催人数、対象を決める。
通常、小学生の場合、1クラス単位で実施。
※オンライン授業の場合は、同時開催上限は100名。
- 2) 日程・実施形式（オンライン、オフライン）・開催回数・時間を決める。
- 3) 当日参加可能なスタッフを確保する。
- 4) 事前に体験キット等を郵送する。
（オンライン授業の場合）
- 5) オンライン授業の場合は、アプリの指定と事前テストを行う。

■ 予算

- 1) オンライン授業
(45分講義+45分体験) 88,000円～
出前(オフライン) 授業
(45分講義+45分体験) 99,000円～

※授業時に、受講者側と組合とのコーディネーター役を受講者側（学校）に派遣する場合は、別途費用が必要。

- 2) 体験キット 1,100円×人数

問合せ先



大阪府森林組合

大阪府森林組合南河内支店

TEL: 0721-63-0850

e-mail: shinrin-minamikawati@giga.ocn.ne.jp

URL: <http://www.o-forest.org/>



事例 5 木エでものづくりを楽しむ活動



ポイント：木工を通じて
森林の役割や
環境問題を考える

対象：子ども
(幼稚園・保育園児・小学生)

◆ 活動の概要と特徴

日本の森林環境について「木遣い」に関する講義を行い、理解と興味を深めたのち、年長さん、職員、保護者といっしょに園に卒園記念品としてのベンチとテーブルを製作する。

木に触れ、仲間や先生、家族と共にものづくりをすることで、子どもたちが、「子どもの時間」を満喫し、「生きる土台」と「豊かな感性」を育む機会になる。

完成した木のベンチとテーブルは、子どもたちが卒園しても未永く園で使い続けることが出来る。

◆ 活動のねらい

- 1) 子どもをはじめとする、すべての人が木を身近に使っていくことで、人と、森や木の関りを主体的に考えられる豊かな心を育む。
- 2) 木のあたたかさに触れ、木工を通してものづくりを楽しむ木育を通じて心や人間を育てる。そしてそれが、環境問題を考えるきっかけづくりとなる。
- 3) 木を適切に使うことで森を守り・木を育て・人を育むことを「あそぶ・つくる・まなぶ」を通じて知ってもらう。

◆ 事前準備等

- 1) 対象・開催人数を決める。
- 2) 開催場所を決める。
- 3) 取組みたい活動内容を決める。
- 4) 日時を決める。
(数日候補日を準備しておく)
※間伐材使用の場合、手配に時間がかかる場合がある。

◆ この活動の実施例

- 1) 園児とつくる、テーブルとベンチ
実施の約2か月前より、打合せ→図面作成→見積り→材料手配→製作加工準備をする。
園での製作実施は、2週間間隔で3回行い、その間の作業可能部分については、宿題として作業を進める。
完成までには、約1か月半～2か月の期間を要する。
- 2) その他、木工を子どもたちに教える為のイベントを企画している方のために、指導者向けのサイトがホームページにある。画像を見て「木」のものづくりを指導者に学んでいただき、子どもたちが木工を体験出来るプログラムである。

※下記は、参考価格です

●材料費	大阪産ヒノキ感刺荒木	一式	¥50,000	total ¥370,000
●加工費	プレーナー加工・カット	一式	¥40,000	
	部分技術加工	一式	¥100,000	
●指導料	出張講師 2名	3回	¥120,000	
●その他	企画・デザイン・設計費	一式	¥40,000	
	雑費	一式	¥20,000	

◆ 活動における注意点

- ものづくりの時につかう道具の使い方については、事前に参加者に注意点を説明してからスタートする。
- けがなどのトラブルが発生する場合があるので、救急に関する準備や連絡体制を確認しておく。
- ケガ等の注意喚起だけでなく、ものづくりの楽しさを味わえるよう、はたらきかけを工夫する。
- 感染症対策は、マニュアルを作成しすべての参加者に周知する。

問合せ先



特定非営利活動法人木育フォーラム
(通称 NPO法人木育フォーラム)

TEL: 06-6115-6919 (もくいく)

e-mail: info@mokuiku.org

URL: <http://www.mokuiku.org>

facebook: <http://www.facebook.com/mokuiku>



事例 6 杉BOXワークショップ

所用時間
30分



☞ **ポイント**：木の素材に触れ
つくる楽しみを
体験する

対象：小学生以上
(保護者同伴の場合5才以上)

◆ 活動の概要と特徴

カットした杉板を釘で打付けて「杉BOX」をつくり、出来上がった杉BOXにステンシルを使って絵を描く。

蝶や花など、色々な形にくりぬいた型紙を杉BOXの上に置いて、ベンガラという自然素材で作られた塗料を上から筆でたたき付けるように置いていく。

完成した杉BOXは、小物を飾ったり、本棚に置いて仕切り代わりに使うと、小さな本を収納することも出来る。

また、壁にかけて飾り棚としても使うことができる。
つくる楽しみだけでなく実用性も兼ね備えている。

◆ 活動のねらい

- 1) 杉の素材に直接触れ、杉の香りを楽しみ五感で木を感じながら、想像力を養う。
- 2) 杉板を釘で打付けるとき、木の表裏どちらを外側にしたらいいかな? など、木の特性を考えながらものづくりに取り組み見識を深める。
- 3) ベンガラなど日本古来の塗料に触れ、それを使うことでその材料の素材感などを感じることができる。

◆ 事前準備等

- 1) 開催人数・対象を決める。
- 2) 日時、開催場所を決める。(数日候補日を準備しておく)
- 3) 開催の趣旨や、内容によって、準備の内容が異なる場合があるので、事前に打合せが必要。
(例えば、杉BOXをつくる前に勉強会を行うなど)

◆ この活動の実施例

- 1) 環境啓発イベントなどで環境問題について勉強しながら、杉BOXづくりを体験する。
- 2) 大型店舗などで、他団体と一緒に物作り体験のひとつとして行う。
- 3) 汚れても良い服装、もしくはエプロンを持参した上で参加してもらう。

■ 予算

- | | |
|-------------|----------|
| 1) 杉BOX材料 | 500円 |
| 2) ステンシル用材料 | 3,000円～ |
| 3) 指導員謝礼 | 40,000円～ |
| 4) 出張費※要相談 | |

■ 必要な材料や道具

- 1) 杉BOX材料(主催者で用意)
- 2) ステンシル用材料(主催者で用意)
- 3) テーブルと椅子
- 4) ブルーシート
- 5) バケツ(水)
- 6) 新聞紙・ティッシュ

<勉強会実施する場合>

- ・ プロジェクター ・ スクリーン ・ 延長コード
- ・ パソコン(持参する場合があります)

◆ 活動における注意点

- 金槌や釘などを使うため、子どもが作る場合は必ず大人がサポートする。
- ケガなどのトラブルが発生する可能性があるため、救急に関する準備や連絡体制を確認しておく。
- ケガ等の注意喚起だけでなく、ものづくりの楽しさを味わえるようはたらきかけを工夫する。
- 感染症対策は、マニュアルを作成しすべての参加者に周知する。

問合せ先

NPO法人 もく(木)の会

TEL: 06-6615-5117

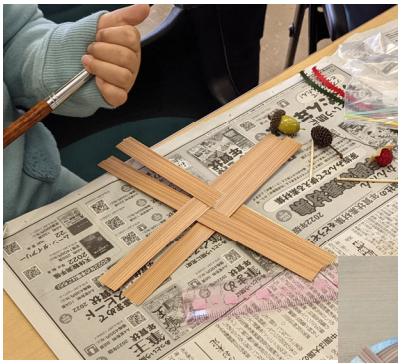
e-mail: info@mokunokai.jp

URL: <https://www.mokunokai.jp/>



事例 7 杉のオーナメントづくり

所要時間
40分



📌 **ポイント**：木の素材に触れ
つくる楽しみを
体験する

対象：小学生以上
(保護者同伴の場合5才以上)

◆ 活動の概要と特徴

杉のカナバ(杉をうすくスライスしたもの)を組んで、曲げたり貼り合わせたりしながらオーナメントをつくる。作業中は杉のカナバからは、ほんのり杉のいい香りもして、癒される。

出来たオーナメントに、山から拾ってきた木の実や、松ボックリ、葉っぱなどを付けて、自分オリジナルのオーナメントが完成。クリスマスツリーに飾ったり、お部屋のシンボルマークにしたり、または、プレゼントにしたりと大人から子どもまで楽しめる。

◆ 活動のねらい

- 1) 杉の素材に直接触れ、杉の香りを楽しみ五感で木を感じながら、想像力を養う。
- 2) オーナメント製作を通してモノづくりを楽しみ、ものづくりの喜びを育む。
- 3) 木を使うことで木の特性を学び、その使い方に興味がわき見識を深める。

◆ この活動の実施例

- 1) 子どもたちが所属する団体の集会で「自然との共生」プログラムの一環とし、クリスマスが近い時期にオーナメントづくりを企画。
- 2) 事前に山に行き松ボックリや木の実を採取し飾りつけとした。
- 3) 汚れても良い服装、もしくはエプロンを持参した上で参加してもらう。

■ 予算

- 1) オーナメント製作費 500円～
- 2) 指導員謝礼 40,000円～
- 3) 事務費(チラシ、当日のしおりなど) 10,000円～
- 4) 出張費※要相談

◆ 事前準備等

- 1) 開催人数・対象を決める。
- 2) 日時、開催場所を決める。(数日候補日を準備しておく)
- 3) オンラインでの開催を検討される場合、担当者は、一度オーナメントの製作を体験する必要がある。
※開催方法については、要相談
- 4) 飾りつけに自然素材を使う場合は、事前に採取し、虫の処理などをしておく。

■ 必要な材料や道具

- 1) オーナメントの材料(主催者で用意)
- 2) グルーガン(主催者で用意)
- 3) 筆(水彩用 太筆)・鉛筆
- 4) バケツ(水)・筆洗い
- 5) 定規(15cm以上)
- 6) 新聞紙
- 7) はさみ
- 8) 両面テープ

<勉強会実施する場合>

- ・ プロジェクター
- ・ スクリーン
- ・ 延長コード
- ・ パソコン(持参する場合もある)

◆ 活動における注意点

- グルーガンなど子ども単独での使用は、ケガにつながります。必ず大人の方がサポートすること。
- ケガなどのトラブルが発生する場合がありますので、救急に関する準備や連絡体制を確認しておく。
- ケガ等の注意喚起だけでなく、ものづくりの楽しさを味わえるようはたらきかけを工夫する。
- 感染症対策は、マニュアルを作成しすべての参加者に周知する。

問合せ先

NPO法人 もく(木)の会

TEL: 06-6615-5117

e-mail: info@mokunokai.jp

URL: <https://www.mokunokai.jp/>





事例紹介団体の活動風景



木育サポートネット



NPO法人 もく(木)の会



木育フォーラム

大阪府森林組合南河内支店



発行	一般財団法人大阪府みどり公社 森林整備・木材利用促進支援センター
原文作成	NPO法人 もく(木)の会 (大阪府みどり公社木材利用アドバイザー)
発行年月	2022年3月

この紙は「木になる紙」A2マット57.5kgを使用しています。